

ユーモアスピーチ船橋

2018 (H30) 年 8 月 9 日発行

ジョークは暮らしの調味料・ユーモアは人生のかくし味

148 回船橋ユーモアスピーチ

2018 年 8 月 9 日 (木)

3 分間スピーチ

スピーチテーマ 「捨てる」、「笑い」

ロングスピーチ

「西郷どん」

入江 清之さん

「古典落語」

石渡 巧 さん

7 月 12 日の参加者：中島、稲葉、工藤、はらだま、川田、飯野、入江、辻内、河野、能塚、松本、大塚、佐藤、田谷、中久木、松永、山田、川崎、西内、植野、早瀬、町田、長嶋 23 名

主催：NPOシニア大楽

ユーモアスピーチ共和国・船橋支部

支部長：長嶋秀治 043-261-5832

発行者：長嶋秀治

編集&事務局：町田雅和

267-0066 千葉市緑区あすみが丘

5-26-7 T/F 043-294-2911

mac555new@ybb.ne.jp

参加費 500 円 (入会金 1000 円)

開催日と場所

毎月第②木曜日 14:00~16:30

会場「ニッセイ・ライフプラザ船橋」

船橋市湊町 2-1-1 日生船橋ビル 1F

ロングスピーチ

「楽しい認知症予防」

辻内 京子さん

楽しく遊び感覚でできる、認知症予防策を紹介しました。

- ・避難所で役立つ新聞紙でのスリッパ作り
 - ・左右、別々の動きをする指の運動
 - ・居酒屋でもらったコースターでできるマジック
 - ・輪ゴム 2 本でできる簡単マジック
 - ・「口」という漢字に 2 画たして、漢字を作るクイズ
- など使用したグッズをお土産に持ち帰れる、お得な体験講座でした。

(写真は居酒屋のコースターを使ったマジック実演風景)



ロングスピーチ

「大阪学」

稲葉 勝弘さん

私は大阪で生まれ二十歳半ばに転勤で名古屋に 1 2 年以降東京 (住まいは千葉県) で過ごして来ました。本人は標準語を使ってる積もりでもイントネーションや身振りで大阪出身を指摘された経験がよくあります。それだけ大阪の影響は他の地方に比して大と痛感しています。そもそも大阪は江戸時代から武士の東京に対して町人の町としてライバル意識が強くその結果建前より本音で善悪より損得で行動する傾向があります。その例として大阪弁で「いらち」とはせつちかな事でそれは早い者勝ち精神から信号無視や歩行速度が全国一からもわかります。私の場合は短足でピッチを上げるせいもあります。吉本新喜劇の品のない大阪弁や大阪商人の「がめつい奴」のせいで悪印象を持たれる人も多いですが反面サービス精神旺盛で親しみやすい大阪人を再認識して頂けたら幸いです。最後に大阪で見た広告をお知らせします。警察「痴漢はあかん」、居酒屋「大安売り生ビール飲み放題何杯飲んでも一杯 300 円」



3 分間スピーチダイジェスト テーマ「腹立ち」、「WCサッカー」**中久木一乗 : 「腹立ち」**

小学5年まで疎開していた村の子供の娯楽は河原での野球であったが、心優しい私は、バットでボールを叩くことがどうしてもできず、必ず三振するので、「バットを振るな」と言われていた。つまり私はバッターボックスに「立つのみ」と言われ、「ノリ」の呼び名がやがて「立つノリ」となった。ボスが中日ファンであった影響で私もドラゴンを応援しているが、ドラゴンはいつもジャイアンツの原選手・監督に阻まれていた。バッターボックスに立つだけの「中久木立つのり」としては、何とも腹立たしい「腹立つ ノリ (原辰徳)」さんであった。私が腹を立てたのは「女性問題で1億円払った」こと。危険な罠にはまったこと、払える1億円を持っていたこと、脅されて払ってしまったことが一番腹立たしい。

植野晏生 : 「西日本豪雨と思い出」

広島・岡山・愛媛などで豪雨の被害が出ています。私50歳の時に、備中高梁市に赴任しました。(素敵な町でした。4年間ヤマセミを追いかけました。) 備中松山城ハイキングや吉備真備の故郷・吉備町や拳銃追放の町・府中市にドライブしました。皆思い出の場所です。そこが今冠水や土砂災害に見舞われています。トランプさん、地球温暖化防止にも気を使ってねと言いたいですね。

工藤文夫 : 「USJは半端なかった」

母いわく、旅行するなら60歳台までときいていたので、70歳を前にして、気になっていたUSJに行ってきた。アメリカのUSJを何十年も前に行った印象ではディズニーランドより大人向けで楽しかったイメージがあり、久しぶりのワクワクでした。パスポートチケットの為、並ぶこともなくスイスイスパイダーマン・ジュラシックパークを期待どうり楽しみ、いよいよハリーポッターのアトラクションでそれは起こりました。兎にも角にも、左右前後、激しく体がゆすぶられ1分もしないうちに吐き気をもよおす事態となりました。これは空腹のせいかと思い、早めに昼食をとり、次のファイナルファンタジーにチャレンジするも30秒もしないうちに、またも「おえー」状態。いままで船酔い・乗り物酔いはたまにありましたが、1日で2度も酔ったのは人生初の経験でした。

飯野 望 : 「腹立ち」

世の中腹の立つことばかりですね。改札の出入りのタッチの差や駅ホームでの立ち位置、映画館のひじ掛け所有権など、でも、6秒待ったり、大声を出したり、手のツボを押さえたり、深呼吸、水を飲むことで収まるそうです。なるほどユーモアスピーチ参加の時はそうします！！。

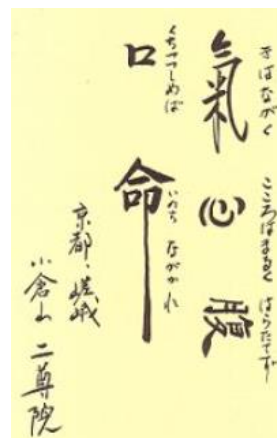


西内幸雄：「近況です」

習志野市民 — 稲葉さん、原田さん、田谷さんの頑張りメッセージの発信があり、私もと思い 男女共同参画週間事業 「 私たちの働き方改革 」のイベントのPRをさせて貰いました。 またロングスピーチ「 大阪学 」がありました。私は、神戸 — 山梨・都留文科大学 — 社会人 人形の久月 — 現在 社会保険労務士への系譜をたどっています。学生時代から合理主義の塊と揶揄されています。現在も勉強習得したことを、ビジネス化することにしています。元氣にがんばっています。

田谷正明：「腹立ち」

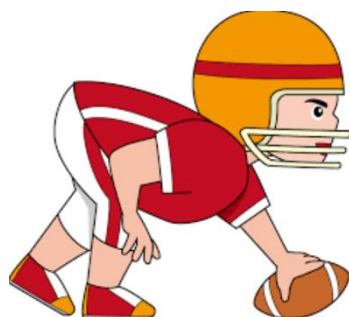
昨年の70歳のお祝いに名古屋在住の小学校3年生の孫が色紙を送って来てくれた。有名なお寺のそばの墓石屋さんに学校から見学に行った時に店に貼ってあった言葉だと言うことでした。「気はながく（一番気をつけてください） ころろは丸く 腹立てず 口つつしめば いのち長けれ」。9歳の孫にこんなことを言われるようではどうしようもないと深く深く反省しました。「腹立ち」を覚えることがあってもこの色紙を思い出すようにしています。そして、その人がいるだけで場が和む・・・そんな老人になるよう努めます。

**山田 正國：「新幹線にて」**

もう30年ぐらい前のできごと 二人掛け椅子の座席、初老の紳士と隣席になり、お隣さん神戸経済大学の教授 最近定年で退職した。昨晚東京で講演会のスピーカを務めて 昨晚は在京の教え子OBたちが一席設けてくれて、いま神戸に帰るところだ。かの教授曰く私は何時も 教え子たちに食事を奢ってもらった、私はどこに行っても教え子が奢ってくれるので一度も人様に奢ったことがない。まことに失礼だが、お昼の汽車弁を奢らしてくれないか。いやいやそんな見ず知らずのお方にとお断りしたが、人様に奢る気持ちとはどんなものか、体験してみたいと仰せなのでそれでは喜んでお付き合いさせてもらおう といって 車内弁当ご馳走になりました。このとき おとぎか落語の国に行ったみたいな気持ちでした。

入江清之：「腹立ち」

入江清之：例のモリ・カケや日大アメフト部問題に係わる政治家、官僚そして大学の理事等の発した言葉の誠意のなさや無責任さには未だ腹が立っている。「記憶や記録にございません」「そのような資料はありませんでした」等のワンパターンのせりふには「そんな訳ないだろう、云うことはそれだけか」と突っ込みたくなる。社会の範となるこれらトップの発言に比べ、あの悪質なタックルを犯した日大アメフト部学生の謝罪会見での言葉には血が通い、誠意も感じられた。このように人の発した言葉の信憑性はその字面だけでなく、人間性、表情、動作、視線それに声のトーンと云った非言語的なものが聴く人に強い印象を与えることを彼の会見から再認識した



町田雅和：「見世物小屋」

江戸時代、両国橋のたもとや奥浅草に見世物小屋が出ていたそうで・・・
世にも珍しい化け物 四角い顔に目が3つ、歯が二本 → 鼻緒のとれた下駄
命の親 → 茶碗にご飯
六尺の大イタチ → 1.8m (六尺) の大きな板に血
大ざる・子ざる → 大きなざると、小さなざる
おおかみ娘 → 大きな日本髪を結った娘
夜間飛行 → 紐で吊っている薬缶が移動
江戸時代にタイムスリップできたら、見世物小屋を覗きたい

早瀬君子：「腹立ち」

私は“腹が立つことが多い人間”で、特に人眼関係においてはしょっちゅう腹を立てていますが、普段、身近なところでは<駅の階段の上り下りなどで導線を守らない人たちに腹が立ちます。混み合う時間帯に、上り階段の人の列をかきわけながら下りてくる人に注意したいけど、怖いから我慢します。又居酒屋では周りの迷惑も考えずに、がなり立てるような大声で話を交わし、耳をつんざくような笑い声を発するグループにも腹が立ち(地声が大きいと仰る稲葉さんへ苦言ではありませんよ)、「うるさくて話が通じない」と同席の仲間に言うと「私は元気がよくて良いと思いますよ」と応じられて拍子抜けしたことがある。好ましくない迷惑行為にも腹も立てず、穏やかで寛容な人たちには敬服するが、得てしてそういう人たちとの交流はつまらない。(異なる観点からの捉え方で)人や事象に腹を立てるような人たちとの話は面白い。

長嶋秀治：「腹立ち」

JR に対して腹立たしいことが2つある。①シニア割引の運賃を設定してほしい。ラッシュアワーを避けた時間帯の乗降に対して2,3割の割引をすれば、シニアは喜んで外出し、経済の活性化につながる。②飯田橋と浜松町に回数券を利用してそれぞれ月に4回くらい出かける。料金は片道840円と同額。乗車券を購入する場合は駅指定ではなく、金額指定で購入できるのに、回数券は駅指定が優先でそれぞれ購入しなければならない。何と理不尽なことか。先日差出人が東京駅駅長のはがきが届いた。私の要望を聞き入れてくれる「はがき」かなと思ったらパスモの落とし物が届いています、と遺失物案内のはがき。ちょっぴり親切なところもあるのだなといそいそと出かけた。

松永成三郎：「腹立ち」

腹が立つことがなければ世の中は平和で良いんでしょうが、そうもいかないのが現実です。それに関して或る著書を思い出しました。90歳で先年亡くなった、斎藤茂太の「一笑一若、一怒一老」という本です。あまり怒ってばかりいると寿命を縮めますよ、という趣旨です。精神科医で日本ペンクラブ会長も務める傍ら、非常に多くの本を出しています。常にユーモア溢れる生き方で、もっと長生きされるかと思っていました。私なりの格言を考えました。それは、「一怒、二うつ、三老」にならないように、常に明るく前向きに生きようという自戒の意味を込めた表現です。

中島孝之：「西野は半端ない男だった」

5月の例会で私はw杯2か月前の監督交代はとんでもないことだと話しました。しかし西野さんは半端ない人でした。予選の最終戦のポーランド戦で、日本は勝つか引き分けで予選通過、もし負けてもセネガルが勝てば行ける状態でした。ここで西野さんは先発メンバーを6人変えてきました。今まで勝てないと思われていた試合に勝ち

点4を取った好調なメンバーを変えたのです。負けたら批判されるでしょうが、出してもらえたメンバーは嬉しかったし張り切ります。前半戦が終わって両方の試合が0対0でこのまま終われば1位で予選通過できる状態でした。ところがポーランドが14分に得点し日本は同点にするかセネガルに勝ってもらわないとダメになりなした。ところが29分にコロンビアが得点して、今度はコロンビアがこのままリードを保ち日本は1失点のまま終われば、今年から導入されたフェアプレイポイントで、イエローカードの数が少ない方が上位になり日本は予選通過できる状態になりました。西野さんは37分に長谷部を入れてこのままボールを回して攻めるなど命じました。11分間ボールを回し続けたが批判は有りましたが予選を通過できました。

サッカーの解説者がなぜポーランドが攻めてこなかったのか分からないと言っていました。西野さんは知っていたと思います。ポーランドはドイツとソ連に支配され続けた国で日露戦争に勝った日本を尊敬している国なのです。

日本は決勝トーナメントでベルギーに負けましたが後半半ばまで2点リードしベスト8の夢を持たせてくれた事に感謝したいと思います。西野さんは半端ない人でした。



☆スピーチダイジェスト送付先（1週間以内に）mac555new@ybb.ne.jp

お願い

ロングスピーチのダイジェストはA4 1ページ以内

3分間スピーチのダイジェストは400字以内を目安にして下さい

予告：9月船橋ユーモアスピーチの会

9月20日（木）14時 ニッセイプラザ1階 会議室

（いつもの第2木曜ではありません）

ロングスピーチ 中久木 一乗さん「渡る世間はマジックばかり！」

関岡 直樹 さん「シルバーリハビリ体操」

スピーチテーマ 「夏バテ」「やせ我慢」

予告：ユーモア共和国サミット in 巣鴨

9月29日（土）13時30分～